

kanetsu hogo komatsu nomi  
更生保護

# 小松能美

第5号

2018年(仲秋号)



会長 元山 洋

## 「みんなで考え、みんなで行動」

急遽会長に就任し、山本前会長のよう  
に、きめ細かい運営ができるかとても不  
安でしたが、役員、各部部长、保護司の  
皆様方に支えられ「社会を明るくする運  
動」では、成果を収め終えることができ  
ほつとしています。

児童虐待による幼児の死亡、児童を車  
でひき線路上に放置した事件等、心を痛  
める事件が多発しています。犯罪や非行  
を防止し、立ち直りを支えるためには、  
私たち保護司会が中心となり、更生保護  
機関・団体、行政、学校との連携を一層  
強め、地域での啓発活動、声掛け、見守  
り、相談、支え合い等、きめ細かいつな  
がりをねばり強く広め、強めることが大  
切です。

今後も「みんなで考え、みんなで行動」  
のもと、お互い顔を合わせ意思疎通を図  
るとともに、これまで着実に前進させて  
きた各部会の中で、一人ひとりがアイデ  
ィア・特技を生かすことで大きな力を発  
揮すると確信しています。  
私自身は「自分を成長させられる」と  
前向きに考え職務にあたっていきたい。  
今後ともよろしくお願いいたします。

## 定期総会の開催

小松能美保護司会の平成三十年定期  
総会は、五月九日午後一時三十分より寺井  
地区公民館にて来賓七名、保護司五十八名  
中三十九名が出席(委任状十四通)して開  
催された。

地元の井出能美市長の歓迎の挨拶に続い  
て、保護司でもある和田小松市長が挨拶さ  
れ、前川北町長のメッセージが朗読された。  
提出議案はいずれも承認された。

平成二十九年収支決算として、収入総  
額三百七十七万三千三百六十一円、支出総  
額三百六十一万六千七百七十五円、次年  
度繰越金八万六千五百八十六円。主な事  
業は、社明月間にJR四駅街頭キャンペーン  
や、「キッズフェスタ2017」に協賛して、社  
明ティッシュ配布、ホゴちゃんの着ぐるみ、手  
作り遊びを通して参加親子と触れ合ったこ

と。福井刑務所へ視察研修に行ったこと。ケ  
ース研究会として、小松市立南部中学校の  
一年生百七十九名と、二十五名の保護司が  
グループ別に話し合ったこと、新年一泊自主  
研修である。平成三十年収支予算として、  
収入総額三百六十四万四千  
円、支出総額三百六十四万  
四千円(内予備費十二万五千六百  
円)。



## 今年度の主な事業

- 厚労省主催「薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーン」六月二十四日イオン小松平  
面店
- 市長町長議長に「総理大臣社明メッセー  
ジの伝達」七月二日 各市町庁舎
- JR四駅街頭キャンペーン、七月九日
- 北部児童センター主催「キッズフェスタ」  
に協賛、七月十六日小松市民センター
- 社明啓発広報車に搭乗、七月中各市町内
- 心の教育主催「グッドマナーキャンペーン」

- に参加、九月中一週間各小中学校校門
- 社会参加・貢献活動十月十日、清掃作業
- 視察研修十月二十四日、瀬戸少年院
- 公開ケース研究会、十一月辰口中二年生
- 新年自主研修、一月十五、十六日おび  
し荘
- 機関紙(誌)の発行(保護区二回、支部一  
回)
- 学校訪問(社明作文応募依頼・懇談)  
七月
- 定期総会(一回)、定例理事会(五回)
- 各部会・支部会(随時)



金沢保護観察所 所長 合田 裕憲

平成十四年にピークを迎えた刑法犯認知件数は、その後減少に転じ平成二十九年には三分の一まで減少しています。ところが、その一方で刑法犯検挙件数に占める再犯者の割合が近年上昇し、平成二十八年には四十八・七%と約半数が再犯者です。

犯罪や非行のない安全で安心な社会の実現には再犯対策が必要不可欠といえます。平成二十九年十二月に策定された国の再犯防止推進計画には五つの基本方針が示され、その第一番目には「誰一人取り残さない」社会の

自の新境地を拓きたいとの思いで技術の向上に努めて参りました。最近、漸く自分の思いが少しずつ表現できるようになり、作ることへの喜びが肌で感じられるようになりました。「徳は孤ならず」私の好きな言葉ですが、全てに感謝し、己を振り返る心の余裕をもちたいと願っております。

### 陶業五十年に思う



細字三代 田村 敬星  
小松市南浅井町

九谷毛筆細字とは、和歌・漢詩などを極細の毛筆で磁器に書き込む技法です。

十九歳で祖父金星に師事し、早いもので五十年の歳月が経ちました。

若いころは、一人前になりたいと一心で無我夢中で技術の習得に励んだものです。

今日まで、細字技法に磨きをかけ、独

実現に向け、国・地方公共団体・民間の緊密な連携協力を確保して再犯防止施策を総合的に推進する、とされています。

小松まちづくり交流センター内に設置された小松能美更生保護サポートセンターは、保護司活動の拠点として、関係機関・団体との連携に十二分にその機能を発揮し、保護司活動の充実・強化が図られています。今後ともサポートセンターを拠点として小松能美保護区保護司会がますます発展することを心から祈念しています。

自の新境地を拓きたいとの思いで技術の向上に努めて参りました。最近、漸く自分の思いが少しずつ表現できるようになり、作ることへの喜びが肌で感じられるようになりました。「徳は孤ならず」私の好きな言葉ですが、全てに感謝し、己を振り返る心の余裕をもちたいと願っております。

自の新境地を拓きたいとの思いで技術の向上に努めて参りました。

最近、漸く自分の思いが少しずつ表現できるようになり、作ることへの喜びが肌で感じられるようになりました。

「徳は孤ならず」私の好きな言葉ですが、全てに感謝し、己を振り返る心の余裕をもちたいと願っております。

一世紀以上に亘り歴代が作り上げたものを大切にしながら、技を受け継ぐ娘と共に、より真摯な姿勢で歩み、細字の世界に日本人の心のやさしさを綴りたいと思います。



金沢保護観察所 保護観察官 前田 周二

本年四月一日、金沢保護観察所保護観察官として小松能美保護区の担当となりました。

出身地は福井県で、現在、福井市の自宅から電車通勤しています。家族は、妻と妻の母親三人の子供ですが、長女は金沢市内の病院で長男が小松市内の病院で、それぞれリハビリ技師として勤務しています。

趣味は、卓球ですが、五年程ラケットです。

を握っていませんし、休日の競馬も、妻には、小遣いの範囲内だと言いつけています(汗)。

私には、矯正施設での勤務経験しかありませんので、保護司の皆さまの御指導を仰ぎながら、微力ではありますが、再犯防止に向けた更生保護に力を注ぎたいと思っています。

皆さま、どうぞよろしくお願ひします。

## 第41回 有名作家チャリティ作品展

社会を明るくする運動の一環として、有名作家チャリティ作品展が、七月六日～十一日まで金沢市「めいてつエムザギャラリー」において開催されました。本運動の趣旨にご賛同いただいた県内の有名作家に作品を御寄贈いただき、作品はご来場者の入札により、その売上金は罪を犯した人々の更生援助や犯罪予防活動に役立てられます。期間中、県内有名作家の作品を一堂に鑑賞できるとあって、熱心に見入る来場者でいっぱいでした。ご寄付された地元作家の皆様、お世話された保護司有志の方々に、厚くお礼申し上げます。



- ◇寄贈された方々(敬称略)
- ◇工芸の部
  - 打田 幸生・三ツ井為吉・浅蔵五十吉・新藤 晋・浮田 健剛
  - 山中 国盛・高 権成・北村 鶴代・下道 良平・中田 一於
  - 吉田 美統・北村 隆・長谷川紀代・田村 敬星・徳田八十吉
  - 村中 暁美・北村 英昭・糠川 孝之・米田 和・野村 大仙
  - 山岸 大成
- ◇絵画の部
  - 藤田 弘・田方 勇・北 長八・和泉 洸・東 孝太郎
  - 後出 秀茂・池岡 信・松村 芳明・西房 浩二・斉藤 敏明
  - 都賀田久馬・相神 眉鶴・福田 樹峰
- ◇書の部

# 7月は社明運動強調月間

法務省主催第六十八回「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行の防止と、過ちを犯した人の立ち直りを地域のチカラで支えていこうという運動である。

スタートの二日午前、小松支部では、保護司会役員と更女会長が市役所を訪問し、総理大臣メッセージを、和田市長と宮川議長に伝達し、懇談した。その後、社明啓発広報車の出発式をして街宣活動した。

能美支部では、保護司と更女で午前中に井出市長と前町長にメッセージを伝達し、その後広報車に乗って、社明運動の街宣活動をした。夕方、四地区の公共施設前で啓発ティッシュを配った。また防災無線での呼びかけ、ポスター掲示、広報誌への掲載など市町民に訴えた。一方、小中学校と寺井高校を訪問し、学校長と情報交換をした。期間中、テレビ小松で社明PRのDVDを流した。



メッセージ伝達式(川北町)



メッセージ伝達式(能美市)



小松駅(JR4駅街頭キャンペーン)



能美根上駅(JR4駅街頭キャンペーン)



メッセージ伝達式(小松市)



広報車出発式



変好評でした。

今年は特に「竹笛」に人気があり、作った後、「ブー」と大きな音を鳴らせ大変喜んでいました。昨年引き続き「更生ペンギン」の着ぐるみも参加し、会場を歩き回り、社会を明るくする運動をアピールしました。

七月十六日(海の日)の十時から十五時まで、保護司二十三名・更女六名が参加しました。社明チラシ・ティッシュとファイルの配布や、「更生ペンギン」の「ぶんぶんゴマ」のお絵かきコーナー、「ぶんぶんゴマ・竹笛」づくりコーナーを設けて、当日参加の親子連れに呼びかけ、参加していただきました。

キッズフェスタ2018

2018 7/16

犯罪予防活動部会長 森本 崇史



ぶんぶんゴマ、竹笛づくり



ホゴちゃんと記念撮影

各部の報告

総務部会 中川 和信



総務部は、保護司会の執行部として、予算決算を含め会全体の運営について協議します。また、各部会から提出された案件や事業について、スムーズに運営されていくために十分に審議し、統一された意見で理事会に提案していきます。

今年度は、保護区としての組織運営を適切に行い、保護区事業を中心に、それぞれの支部活動を支援していくことを目標にしています。

研修部会 徳山 知子



研修部会の今年度は、視察研修として少年院御三家の一つ、愛知県の瀬戸少年院を予定しています。ちよつと遠いのですが沢山の方の参加をお願いいたします。また、新年自主研修では、公立小松大

学長の山本博先生にご講演をお願いする予定です。

犯罪予防活動部会 森本 栄史



七月九日、JR三駅、十日には小松駅で街頭キャンペーンを実施しました。七月

十六日は小松市民センターで開催の「キッズフェスタ2018」に参加しました。十一月には、能美市立辰口中学校でケース研究会(犯罪予防教室)を予定しています。

協力組織部会 依 秀雄



この度、前部会長の一身上の都合により部会長を受けることになりました。

今年度の活動については昨年同様、対象者の社会参加活動を中心に、協力雇用主の発掘と関係団体等の活動に協力していきたいと思ひます。社会参加活動については十月を予定し、場所はこれまで小松市内で行っていましたが、今年度は能美市の施設で行うこととなりました。皆さんのご協力をお願いいたします。

広報部会 平野 俊也



機関紙は私たち保護司会の活動の記録であり、保護司会発足時からの歴史を引き継ぐ貴重な資料でもあります。各部会と連絡・連携を図り、より分かり易い機関紙の作成を目指したいと思ひます。定期的に更新されているホームページ(事務局担当)も貴重な広報の役割を果たしています。是非ご支援を。

会長退任挨拶



山本 敏明

平成三十年度の定期総会で、小松能美保護区保護司会の会長を退任させていただきました。

思い起こせば平成十七年に庶務に就任して以来、北川会長、北野会

人生二度の定年退職



井上 清光

平成十四年定年退職後すぐに恩師から「保護司」の誘いを受け、委嘱され、早くも十六年目を迎えました。人生二度目の定年退職となり、あつという間に年月が経つたように思ひます。

当初は対象者がなく、私の地区(中山間地)にはそのような人はいないのだと思ひていましたが、初めて「交通短期保護観察」対象者を担当した時は戸惑いを感じながら、先輩諸

長、溪会長と三代の会長に仕え、ご指導賜ったこと、また保護司会の念願であったサポートセンターの開設に係ることができて良かったと思ひています。今日までのご指導ご鞭撻に衷心より感謝申し上げます。退任のご挨拶とさせていただきます。

氏の先生方から助けを受け、何とか対応できたのではないかと思ひます。その後、対象者は「一号観察」の少年二名、「四号観察」「環境調整」それぞれ一件を担当させて頂きました。

対象者は少なかつたけれど、その間、広報部会長として、「更生保護こまつ60周年近10年の歩み」の編纂に携わった事など、お世話になった方々に心から感謝申し上げます。

皆様方にはこれからもご苦勞が多いと思ひますが、健康に留意され、益々ご活躍されますようお祈りしております。



# 更生保護女性会・BBS会の活動報告



## 小松地区更生保護女性会

### 「二年一年の積み重ね」

会長 中谷 純子

平成三十年度、新しい活動が動き始めました。会員の皆様にご協力を得ながらこうして今日の日を繋いでいることに感謝したいと思います。昨年は地区研修会で更生保護法人徳風苑の松岡理事長に講演を頂きました。開口一番に「皆さんに作ってもらう夕食は母の味を思い出し、自立更生に向けて再スタートが出来る」と感謝の思いを伝えられ、夕食作りに参加出来ることに喜びを感じながらお話を伺うことが出来ました。刑を終えても引受人がなく罪の重さを感じ徳風苑に入所。職員が彼らと同じ目線、同じ立場で助言助成しているとのこと。「更生とは対象者ではなく、自分が生まれ変わること」大きな思い・徳を学んだ時間でした。会員として一つの学びが次の一年に重ねられることに感謝したい。



## 能美地区更生保護女性会

### 「今年度の活動目標」



会長 山先 春枝

能美地区更生保護女性会は、三三六名の会員を抱え、来年六十周年を迎える県でも屈指の組織を持った地区会です。嬉しいことに今年度は三十九名の新会員を迎えることができました。

今年度は今まで以上にミニ集会やそれぞれの地区での行事などに参加させていただき、より地域に密着した活動が行えるよう、また更女ならではの細やかな気遣いと気配りにより、未来ある子供たち一人ひとりに優しい手を差し伸べることができるように、会員一同、一歩一歩頑張つて歩んでいきたいと思っております。



## 小松能美地区BBS会

### 「少しずつ一人一人が出来ることを」

会長 北野 友希

小松能美地区BBS会は会員は減少しており、毎回の活動に全員が出られるわけではありませんが、会員少しでも出られる活動に出てきて協力し合つて活動しています。活動は小松能美地区としての活動と県連としての活動とがあります。

今年度はそれに加え、県連が社明PR活動を頑張つていますので、少しの協力でもと思い、MROの旅フェスタにおいて、社明広報活動に参加協力して来しました。ホゴちゃんに扮して、ゆるキャラ大集合に参加致しました。ホゴちゃんにはご存知の通り身長制限があり誰でも入れるわけではないので、出来る人が出来る時に少しの協力をとの想いで参加です。BBSの活動は本当に地道で地味な活動も多く、会員も増えにくいように感じますが、地道な草の根運動が花咲くこともあると思ひ、みんなで頑張つていきます。

## 支部だより

### 小松支部だより

保護司全員四十四名と更女会員が市の社明啓発街宣車に搭乗して、七月二日から三日間と、七月二十八日から三日間の午前と午後、計十二回に分けて小松市内の担当地区を二巡した。

暑い日中、二時間も自分たちで運転するのは大変だが、同乗者同士の情報交換の場でもある。今年は大雨や台風と重なつて中止の日があり、「えー、残念」という声も聞かれた。

九月には県の「グッドマナーキャンペーン」に賛同して中学校の校門に立つ。

### 能美支部だより

社明月間の期間中、七月二十四日に恒例の更生保護関係者の座談会及び意見交換会を開催しました。

第一部は、寺井警察署の刑事課長兼生活安全課長による管内の事件発生状況と犯罪傾向などのお話を聴き、質問時間を設けました。その後、学校との連携事業としての学校訪問の報告を地域毎にしました。能美支部では、今回特に「児童生徒の安全に関する事について」に重点を置きました。学校側からは、登下校の見守りを続けている更生保護女性会に対する期待と感謝を聴くことができました。

第二部は、日頃はあまり交流のない更生保護女性会員の皆さんと保護司との、意見交換会を開催しました。テーブルを囲んで、お互いの活動を紹介し合つたり、アドバイスをしたりと楽しい時間を持つことができました。



教育現場からの声

家庭や地域と手を携えて



小松市立中海中学校  
校長 藤田 信宏

緑豊かな丘の上に本校はありま  
す。校門から校舎につづく長い坂道  
を車で走っていると、登下校する生  
徒たちが立ち止まり、こちらを向い

て挨拶をします。この「坂道の挨拶」  
は、先輩から後輩へと受け継がれて  
きた良き伝統です。保護者や地域  
の方々は、教育に対する関心が高く、  
学校にとっても協力的です。  
本校の校区には、二つの小学校(中  
海小学校、東陵小学校)があります。  
今年度は、「社会に出てほしい  
行動習慣を身に付けている児童生  
徒の育成を目指して」を小中連携の

コンセプトとして、あいさつ運動や家  
庭学習強化週間等、様々な小中共通  
の取組を行っています。また、中海中  
学校区健全育成会が組織されており、  
子どもたちの健全育成や安心・安全  
な地域環境づくりに、学校・家庭・地  
域が一体となって取り組んでいます。  
これからも家庭や地域と手を携  
えて、中海の子どもたちの健やかな  
成長を後押ししたいと考えています。

第一期定例研修

「犯罪被害者等施策について」

平成三十年度第一期定例研修は、五月三十一日(木)午後  
一時三十分から小松市第一地区コミュニティセンターで行われ  
ました。テーマは「犯罪被害者等施策について」で、金沢保護  
観察所前田周一(保護観察官)に講義をしていただきました。

全国の保護観察所においては、「企画調整課の保護観察  
官から、一名以上を被害者担当官とする。また男女各一名  
以上を被害者担当保護司に指名す  
る。」ということで、被害者担当官と被  
害者担当保護司がそれぞれ被害者  
に寄り添う役割が期待されています。

また、加害者に対しては「被害者の  
心情、その置かれている状況等を理  
解させ、その被害の回復、謝罪、被害  
弁償を行う必要があることを自覚  
させることが大切である」ということ  
を学びました。



● 薬物乱用防止キャンペーン ●

「ダメ。ゼッタイ。」

6.26ヤング街頭キャンペーン

今日、麻薬、MDMA、覚せい剤等の薬物乱用  
問題は世界的な広がりを見せ、人類が抱える最  
も深刻な社会問題となっております。

薬物乱用問題に対処するために、新国連薬  
物乱用根絶宣言の支援事業の一環として「ダ  
メ。ゼッタイ。」普及運動を展開しています。

今回、六月二十四日、イオン小松店(平面町)  
にてヤング街頭キャンペーンが行われ、ヤングボ  
ランティア(ボーイスカウト・ガールスカウト等)  
や石川県薬物乱用防止指導員(更生保護女性  
会・薬剤師会・行政機関・保護司会等)が参加  
しました。店の出入口で、普及啓発資料(リーフ  
レット・ティッシュ等)の配布と街頭募金を行い、  
薬物乱用防止を訴えました。

編集後記

今夏は暑かった。経験したこともない暑  
さによく耐えたものだ。一方では、度重なる  
台風と風水害の甚大な被害も…。被災  
に遭われました方々に心よりお見舞い申し  
上げます。

会報5号をお届け致します。機関紙発  
行にあたり、多くの方々にご協力ご支援い  
ただきありがとうございました。今年も社  
明運動」の趣旨を生かし、「更生保護小松  
能美」の発展を皆さん共々期待したいと思  
います。  
※お問い合わせ事務局  
TEL:四六-五一〇五  
FAX:四六-五一〇八

発行日 平成三十年九月二十日  
発行 小松能美保護区保護司会  
印刷 マルト株式会社  
広報部会

小松能美保護区保護観察件数等/7月31日現在

単位(件)

種別	1号 家庭裁判所 保護観察 処分を受けた 者	2号 少年院から仮 退院を許され た者	3号 刑務所から仮 出所を許され た者	4号 刑事裁判所 で刑の執行を 猶予され保護 観察に付され たもの	環境調整 保護観察前 に要する、身元 引受人及び帰住 環境の適否調 査と調整作業
平成29年	11	0	2	9	10
平成30年	13	2	0	11	10
増減	+2	+2	-2	+2	0

最近の保護観察件数等の動向

保護観察事件数は、全体で4件増加したが、主な原因は、少年事件と  
4号観察が多かったためである。  
生活環境調整事件については、昨年と同件数である。